

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	吉田学園医療歯科専門学校
設置者名	学校法人 吉田学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
専門課程	救急救命学科	夜・通信	13 単位 (285 時間)	10 単位 (240 時間)	
	臨床工学科	夜・通信	11 単位 (256 時間)	10 単位 (240 時間)	
	臨床検査学科	夜・通信	18 単位 (272 時間)	10 単位 (240 時間)	
	視能訓練学科	夜・通信	12 単位 (360 時間)	10 単位 (240 時間)	
	歯科衛生学科	夜・通信	12 単位 (330 時間)	10 単位 (240 時間)	
	歯科技工学科	夜・通信	16 単位 (480 時間)	7 単位 (160 時間)	
	医療事務クラーク学科	夜・通信	14 単位 (258 時間)	7 単位 (160 時間)	
(備考) () 内の数字は「学校教育法施行規則等の附則第2条(経過措置)」に基づき「実務経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を記載している					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/iryoshika/>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	吉田学園医療歯科専門学校
設置者名	学校法人 吉田学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人吉田学園ホームページ https://yoshida-g.gr.jp/johokokai/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社 取締役会長	令和7年6月10日から 令和9年度の 定時評議員会 終結まで	経営企画及び管理
非常勤	株式会社 代表取締役 会長	令和7年6月10日から 令和9年度の 定時評議員会 終結まで	学外者からの視点 による運営体制等 のチェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	吉田学園医療歯科専門学校
設置者名	学校法人 吉田学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画(シラバス)は、毎年12月中旬から2月中旬にかけて、各科目の実施状況から授業内容や方法の見直しを図り、次年度分を作成している。 授業の方法や内容に加え、当該科目の到達目標、成績評価の方法・基準を設け、定型様式で科目ごとに作成。学科・学年別にとりまとめ授業計画を作成し、校長の確認・決裁を受け、4月にインターネット上で公表を行う。	
授業計画書の公表方法	https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/iryoshika/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 授業科目の成績評価は、定期試験(必要により再試験を含む)、担当者が必要に応じて実施するテスト、課題、レポート、並びに平素の学習活動全般から得られる評価資料に基づいて総合的に勘案して行う。 シラバス記載の成績評価方法・基準に基づき、科目別に成績の基準となる評点を算定、学則第11条3項に則り、1年生はS～Dの5段階評価に置き換え、2年生以上はA～Dの4段階評価に置き換える。次の条件がともに満たされているとき、所定の時期に行われる成績会議を経て校長が当該科目の成績並びに履修を認定する。 (1) 授業科目の標準授業時間数の2/3以上出席していること。 (2) 成績評価が所定の基準(C以上)を満たしていること。 なお、他での履修・学修を本校において認定する場合や、実習集中講義等において目標達成度合いに応じた評価ができない場合は「N」(認定)と表示する。 ・前期成績判定会議(9月下旬 全学生) ・卒業判定会議(2月～3月上旬 卒業対象学生) ・進級判定会議(3月 進級対象学生)	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 個人の各科目における評点の合計を履修科目数で平均化することにより順位付けし、成績の分布状況を把握している。 これにより、学生個々の習熟状況とともに学科学年全体における成績の分布傾向を把握し、学習指導、科目指導方法、授業内容の改善に役立てる。 また、クラス担任制を採用し、特に成績評価下位(概ね下位1/4)の学生に対し注意喚起を実施、取り組み姿勢の改善や学力向上に向けた補習指導など対策を講じている。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/iryoshika/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業は、校長、副校長、学科長等で構成された卒業判定会議(3月上旬実施)を経て、校長が認定する。 卒業が認められる者は、当該課程の全ての履修科目の単位を修得し、かつ、学費及び諸経費を納入している者とする。ただし、医療事務ク拉克学科においては、総単位数86単位以上履修されている場合は、卒業を認める。 卒業を認定されなかった場合は、当該学年に留め置く(原級留置)。 なお、卒業・課程修了の認定については、学則に示し、公表している。 また、認定方針の改定が必要な場合は、運営会議に諮り検討する。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/iryoshika/

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	吉田学園医療歯科専門学校
設置者名	学校法人 吉田学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://yoshida-g.gr.jp/johokokai/
収支計算書又は損益計算書	https://yoshida-g.gr.jp/johokokai/
財産目録	https://yoshida-g.gr.jp/johokokai/
事業報告書	https://yoshida-g.gr.jp/johokokai/
監事による監査報告（書）	https://yoshida-g.gr.jp/johokokai/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
医療		専門課程	救急救命学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼間	106 単位 (2, 479 時間)	79 (1, 271)	1 (38)	21 (945)	0	5 (225)	
			106 単位 (2, 479 時間)					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
300 人		274 人	0 人	9 人	50 人	59 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

毎年12月中旬から2月中旬にかけて、各科目の実施状況から授業内容や方法の見直しを図り、次年度の授業計画を作成している。

授業計画は、定型様式を準備し、授業の方法や内容に加え、当該科目の到達目標、成績評価方法、基準を設け、シラバスとして科目ごとに作成し、学科別学年別にとりまとめ、授業計画の作成後、校長の確認決裁を受け、学生に公表している。

成績評価の基準・方法

（概要）

学生に公表のシラバスに記載の成績評価方法、基準に基づき、科目別に成績の基準点となる評点を算定。学則第11条3項に則り、1年生はS～Dの5段階評価に置き換え、2年生以上はA～Dの4段階評価に置き換える。成績会議を経て、C以上の成績評価を受けたものを合格とし、当該科目の成績並びに履修を認定する。

卒業・進級の認定基準
(概要) 成績会議にて科目別の成績評価、単位認定を積み重ね、卒業学年最終の成績会議の際に卒業判定会議を兼ね、学則第9条に示した学科別に規定する時間数、単位数の履修状況を確認し、規定に達した者を卒業認定する。なお、認定方針は、学則並びに「学習のしおり」に示し公表している。また、認定方針の改定が必要な場合は、運営会議に諮り検討する。
学修支援等
(概要) 成績評価の基準となる評点から、学生個々の習熟状況を把握するとともに、学科学年全体における成績状況の分布傾向を把握し、個々の学習指導、全体的な習熟状況から科目指導方法、内容の改善に役立てる。 なお、当校ではクラス担任制を採用しており、担任が成績を管理把握し、個々の学習指導、相談に応じている。また、特に成績評価下位(概ね下位1/4)の学生に対し、注意喚起、取り組み姿勢の改善や学力向上に向けた補習指導など、対策を講じている。

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
80人 (100%)	4人 (5%)	61人 (76.3%)	15人 (18.7%)
(主な就職、業界等) 消防本部、病院 他			
(就職指導内容) 公務員試験対策模擬試験(20回)、面接試験対策(模擬面接〔オンライン面談も含む〕の実施、集団討論等)、試験申込書記入サポート			
(主な学修成果(資格・検定等)) 救急救命士国家資格 79名受験、76名合格			
(備考)(任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
273人	10人	3.7%
(中途退学の主な理由) 学業不振、進路変更、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 職業観の醸成(ホームルームやグループワーク等での卒業後のあるべき姿の見える化)、学業サポート(補講の実施、試験対策授業の実施)、生活指導(個別面談を介して日常生活での不安解消)、保護者との連携強化		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士		
医療		専門課程	臨床工学科		○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類						
			講義	演習	実習	実験	実技		
3 年	昼間	134 単位 (2, 425 時間)	113 (1, 804)	4 (105)	17 (516)	0	0		
			134 単位 (2, 425 時間)						
学生総定員数		学生実員	うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数
120 人		58 人	0 人		6 人		46 人		52 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

毎年 12 月中旬から 2 月中旬にかけて、各科目の実施状況から授業内容や方法の見直しを図り、次年度の授業計画を作成している。

授業計画は、定型様式を準備し、授業の方法や内容に加え、当該科目の到達目標、成績評価方法、基準を設け、シラバスとして科目ごとに作成し、学科別学年別にとりまとめ、授業計画の作成後、校長の確認決裁を受け、学生に公表している。

成績評価の基準・方法

（概要）

学生に公表のシラバスに記載の成績評価方法、基準に基づき、科目別に成績の基準点となる評点を算定。学則第 11 条 3 項に則り、1 年生は S ～ D の 5 段階評価に置き換え、2 年生以上は A ～ D の 4 段階評価に置き換え、成績会議を経て、C 以上の成績評価を受けたものを合格とし、当該科目の成績並びに履修を認定する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

成績会議にて科目別の成績評価、単位認定を積み重ね、卒業学年最終の成績会議の際に卒業判定会議を兼ね、学則第 9 条に示した学科別に規定する時間数、単位数の履修状況を確認し、規定に達した者を卒業認定する。なお、認定方針は、学則並びに「学習のしおり」に示し公表している。また、認定方針の改定が必要な場合は、運営会議に諮り検討する。

学修支援等

（概要）

成績評価の基準となる評点から、学生個々の習熟状況を把握するとともに、学科学年全体における成績状況の分布傾向を把握し、個々の学習指導、全体的な習熟状況から科目指導方法、内容の改善に役立てる。

なお、当校ではクラス担任制を採用しており、担任が成績を管理把握し、個々の学習指導、相談に応じている。また、特に成績評価下位(概ね下位 1 / 4)の学生に対し、注意喚起、取り組み姿勢の改善や学力向上に向けた補習指導など、対策を講じている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
18 人 (100%)	0 人 (0%)	13 人 (72.2%)	5 人 (27.8%)
（主な就職、業界等） 病院、クリニック			
（就職指導内容） 就職に必要な資格試験（国家試験、ME2 種検定、ME1 種検定）の試験対策 面接指導、履歴書、令状作成指導、就職先選択に向けた講習会			
（主な学修成果（資格・検定等）） 臨床工学技士国家資格 18 名受験、15 名合格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
54 人	4 人	7.4%
（中途退学の主な理由） 進路変更、学校不適応		
（中退防止・中退者支援のための取組） 基礎学力向上・定期試験合格に向けた対策の徹底、早めの個別面談、保護者との連携強化		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
医療		専門課程	臨床検査学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼間	138 単位 (2, 882 時間)	91 (1, 380)	12 (272)	35 (1, 230)	0	0	
			138 単位 (2, 882 時間)					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120 人		70 人	0 人	7 人	37 人	44 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

毎年 12 月中旬から 2 月中旬にかけて、各科目の実施状況から授業内容や方法の見直しを図り、次年度の授業計画を作成している。

授業計画は、定型様式を準備し、授業の方法や内容に加え、当該科目の到達目標、成績評価方法、基準を設け、シラバスとして科目ごとに作成し、学科別学年別にとりまとめ、授業計画の作成後、校長の確認決裁を受け、学生に公表している。

成績評価の基準・方法

（概要）

学生に公表のシラバスに記載の成績評価方法、基準に基づき、科目別に成績の基準点となる評点を算定。学則第 11 条 3 項に則り、1 年生は S～D の 5 段階評価に置き換え、2 年生以上は A～D の 4 段階評価に置き換え、成績会議を経て、C 以上の成績評価を受けたものを合格とし、当該科目の成績並びに履修を認定する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

成績会議にて科目別の成績評価、単位認定を積み重ね、卒業学年最終の成績会議の際に卒業判定会議を兼ね、学則第 9 条に示した学科別に規定する時間数、単位数の履修状況を確認し、規定に達した者を卒業認定する。なお、認定方針は、学則並びに「学習のしおり」に示し公表している。また、認定方針の改定が必要な場合は、運営会議に諮り検討する。

学修支援等

（概要）

成績評価の基準となる評点から、学生個々の習熟状況を把握するとともに、学科学年全体における成績状況の分布傾向を把握し、個々の学習指導、全体的な習熟状況から科目指導方法、内容の改善に役立てる。

なお、当校ではクラス担任制を採用しており、担任が成績を管理把握し、個々の学習指導、相談に応じている。また、特に成績評価下位(概ね下位 1/4)の学生に対し、注意喚起、取り組み姿勢の改善や学力向上に向けた補習指導など、対策を講じている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
32 人 (100%)	0 人 (0%)	25 人 (78.1%)	7 人 (21.9%)
（主な就職、業界等） 病院、健診センター、検査センター他			
（就職指導内容） 地元への就職を指導（臨床検査技師不足のため）			
（主な学修成果（資格・検定等）） 臨床検査技師国家資格 32 名受験、28 名合格			
（備考）（任意記載事項） 国家試験不合格者は、基本病院勤務が出来ないため就職はない。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
80 人	4 人	5.0%
（中途退学の主な理由） 精神的ストレス、進路変更、体調不良		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学業サポート（補講の実施、試験対策授業の実施）、職業観の醸成（卒業後のあるべき姿の見える化）、早めの個別面談、保護者との連携強化		

①学科等の情報

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
医療		専門課程		視能訓練学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総単位数		開設している授業の種類					
				講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼間	109 単位 (2, 566 時間)		68 (1, 144)	7 (226)	34 (1, 196)	0	0	
				109 単位 (2, 566 時間)					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数		兼任教員数		総教員数	
150 人		74 人	0 人	6 人		52 人		58 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

毎年 12 月中旬から 2 月中旬にかけて、各科目の実施状況から授業内容や方法の見直しを図り、次年度の授業計画を作成している。

授業計画は、定型様式を準備し、授業の方法や内容に加え、当該科目の到達目標、成績評価方法、基準を設け、シラバスとして科目ごとに作成し、学科別学年別にとりまとめ、授業計画の作成後、校長の確認決裁を受け、学生に公表している。

成績評価の基準・方法

（概要）

学生に公表のシラバスに記載の成績評価方法、基準に基づき、科目別に成績の基準点となる評点を算定。学則第 11 条 3 項に則り、1 年生は S～D の 5 段階評価に置き換え、2 年生以上は A～D の 4 段階評価に置き換え、成績会議を経て、C 以上の成績評価を受けたものを合格とし、当該科目の成績並びに履修を認定する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

成績会議にて科目別の成績評価、単位認定を積み重ね、卒業学年最終の成績会議の際に卒業判定会議を兼ね、学則第 9 条に示した学科別に規定する時間数、単位数の履修状況を確認し、規定に達した者を卒業認定する。なお、認定方針は、学則並びに「学習のしおり」に示し公表している。また、認定方針の改定が必要な場合は、運営会議に諮り検討する。

学修支援等

（概要）

成績評価の基準となる評点から、学生個々の習熟状況を把握するとともに、学科学年全体における成績状況の分布傾向を把握し、個々の学習指導、全体的な習熟状況から科目指導方法、内容の改善に役立てる。

なお、当校ではクラス担任制を採用しており、担任が成績を管理把握し、個々の学習指導、相談に応じている。また、特に成績評価下位（概ね下位 1/4）の学生に対し、注意喚起、取り組み姿勢の改善や学力向上に向けた補習指導など、対策を講じている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
27 人 (100%)	0 人 (0%)	27 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 病院、眼科クリニック			
（就職指導内容） 履歴書指導、面接指導、自己分析			
（主な学修成果（資格・検定等）） 視能訓練士国家資格 27 名受験、27 名合格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
88 人	8 人	9.1%
（中途退学の主な理由） 進路変更、体調不良		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学習サポート（補講の実施、試験対策授業の実施）、職業観の醸成（卒業後のあるべき姿の見える化）、早めの個別面談、保護者との連携強化		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		専門課程	歯科衛生学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	118 単位 (2, 957 時間)	64 (1, 341)	32 (986)	22 (630)	0	0
			118 単位 (2, 957 時間)				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
150 人		116 人	0 人	3 人	55 人	58 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

毎年 12 月中旬から 2 月中旬にかけて、各科目の実施状況から授業内容や方法の見直しを図り、次年度の授業計画を作成している。

授業計画は、定型様式を準備し、授業の方法や内容に加え、当該科目の到達目標、成績評価方法、基準を設け、シラバスとして科目ごとに作成し、学科別学年別にとりまとめ、授業計画の作成後、校長の確認決裁を受け、学生に公表している。

成績評価の基準・方法

（概要）

学生に公表のシラバスに記載の成績評価方法、基準に基づき、科目別に成績の基準点となる評点を算定。学則第 11 条 3 項に則り、1 年生は S～D の 5 段階評価に置き換え、2 年生以上は A～D の 4 段階評価に置き換え、成績会議を経て、C 以上の成績評価を受けたものを合格とし、当該科目の成績並びに履修を認定する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

成績会議にて科目別の成績評価、単位認定を積み重ね、卒業学年最終の成績会議の際に卒業判定会議を兼ね、学則第 9 条に示した学科別に規定する時間数、単位数の履修状況を確認し、規定に達した者を卒業認定する。なお、認定方針は、学則並びに「学習のしおり」に示し公表している。また、認定方針の改定が必要な場合は、運営会議に諮り検討する。

学修支援等

（概要）

成績評価の基準となる評点から、学生個々の習熟状況を把握するとともに、学科学年全体における成績状況の分布傾向を把握し、個々の学習指導、全体的な習熟状況から科目指導方法、内容の改善に役立てる。

なお、当校ではクラス担任制を採用しており、担任が成績を管理把握し、個々の学習指導、相談に応じている。また、特に成績評価下位(概ね下位 1/4)の学生に対し、注意喚起、取り組み姿勢の改善や学力向上に向けた補習指導など、対策を講じている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
28 人 (100%)	0 人 (0%)	28 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 歯科医院			
（就職指導内容） 資格（歯科衛生士）を取得し、資格を活かせる歯科医院、病院歯科などに就職を斡旋している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 歯科衛生士国家資格 28 名受験、26 名合格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
101 人	8 人	7.9%
（中途退学の主な理由） 進路変更、学業不振		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学業サポート（補講、補習の実施、試験対策授業の実施）、職業観の醸成（卒業後のあるべき姿の見える化）、早めの個別面談、保護者との連携強化		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
医療		専門課程	歯科技工学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼間	77 単位 (1,960 時間)	26 (404)	2 (46)	49 (1,510)	0	0	
			77 単位 (1,960 時間)					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
70 人		28 人	0 人	3 人	19 人		22 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

毎年 12 月中旬から 2 月中旬にかけて、各科目の実施状況から授業内容や方法の見直しを図り、次年度の授業計画を作成している。

授業計画は、定型様式を準備し、授業の方法や内容に加え、当該科目の到達目標、成績評価方法、基準を設け、シラバスとして科目ごとに作成し、学科別学年別にとりまとめ、授業計画の作成後、校長の確認決裁を受け、学生に公表している。

成績評価の基準・方法

（概要）

学生に公表のシラバスに記載の成績評価方法、基準に基づき、科目別に成績の基準点となる評点を算定。学則第 11 条 3 項に則り、1 年生は S～D の 5 段階評価に置き換え、2 年生は A～D の 4 段階評価に置き換え、成績会議を経て、C 以上の成績評価を受けたものを合格とし、当該科目の成績並びに履修を認定する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

成績会議にて科目別の成績評価、単位認定を積み重ね、卒業学年最終の成績会議の際に卒業判定会議を兼ね、学則第 9 条に示した学科別に規定する時間数、単位数の履修状況を確認し、規定に達した者を卒業認定する。なお、認定方針は、学則並びに「学習のしおり」に示し公表している。また、認定方針の改定が必要な場合は、運営会議に諮り検討する。

学修支援等

（概要）

成績評価の基準となる評点から、学生個々の習熟状況を把握するとともに、学科学年全体における成績状況の分布傾向を把握し、個々の学習指導、全体的な習熟状況から科目指導方法、内容の改善に役立てる。

なお、当校ではクラス担任制を採用しており、担任が成績を管理把握し、個々の学習指導、相談に応じている。また、特に成績評価下位（概ね下位 1/4）の学生に対し、注意喚起、取り組み姿勢の改善や学力向上に向けた補習指導など、対策を講じている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
7 人 (100%)	0 人 (0%)	7 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 技工所、歯科医院・クリニック			
（就職指導内容） 履歴書指導、面接指導、自己分析			
（主な学修成果（資格・検定等）） 歯科技工士国家資格 7 名受験、7 名合格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19 人	1 人	5.3%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学業サポート（補講、補習の実施、試験対策授業の実施）、職業観の醸成（卒業後のあるべき姿の見える化）、早めの個別面談、保護者との連携強化		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
商業実務		専門課程	医療事務クラーク学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼間	86 単位 (1, 717 時間)	62 (992)	16 (380)	11 (465)	0	5 (150)	
			94 単位 (1, 987 時間)					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80 人		12 人	0 人	3 人	8 人	11 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 毎年 12 月中旬から 2 月中旬にかけて、各科目の実施状況から授業内容や方法の見直しを図り、次年度の授業計画を作成している。 授業計画は、定型様式を準備し、授業の方法や内容に加え、当該科目の到達目標、成績評価方法、基準を設け、シラバスとして科目ごとに作成し、学科別学年別にとりまとめ、授業計画の作成後、校長の確認決裁を受け、学生に公表している。
成績評価の基準・方法
（概要） 学生に公表のシラバスに記載の成績評価方法、基準に基づき、科目別に成績の基準点となる評点を算定。学則第 11 条 3 項に則り、1 年生は S ～ D の 5 段階評価に置き換え、2 年生以上は A ～ D の 4 段階評価に置き換え、成績会議を経て、C 以上の成績評価を受けたものを合格とし、当該科目の成績並びに履修を認定する。
卒業・進級の認定基準
（概要） 成績会議にて科目別の成績評価、単位認定を積み重ね、卒業学年最終の成績会議の際に卒業判定会議を兼ね、学則第 9 条に示した学科別に規定する時間数、単位数の履修状況を確認し、規定に達した者を卒業認定する。なお、認定方針は、学則並びに「学習のしおり」に示し公表している。また、認定方針の改定が必要な場合は、運営会議に諮り検討する。
学修支援等
（概要） 成績評価の基準となる評点から、学生個々の習熟状況を把握するとともに、学科学年全体における成績状況の分布傾向を把握し、個々の学習指導、全体的な習熟状況から科目指導方法、内容の改善に役立てる。 なお、当校ではクラス担任制を採用しており、担任が成績を管理把握し、個々の学習指導、相談に応じている。また、特に成績評価下位(概ね下位 1 / 4)の学生に対し、注意喚起、取り組み姿勢の改善や学力向上に向けた補習指導など、対策を講じている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
12 人 (100%)	0 人 (0%)	12 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 病院、クリニック 他			
(就職指導内容) 求人票の見方、履歴書の書き方、面接練習、礼儀・マナー、自己 PR について			
(主な学修成果（資格・検定等）) 医療事務コンピュータ技能認定試験 3 級 12 名受験、 12 名合格 医科医療事務技能審査試験 12 名受験、 11 名合格 医科医療事務管理士技能認定試験 12 名受験、 11 名合格 Excel 表計算処理技能認定試験 3 級 12 名受験、 12 名合格 実務技能秘書検定 3 級 12 名受験、 12 名合格 診療報酬請求事務能力認定試験 12 名受験、 9 名合格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学業サポート(補講、補習の実施、試験対策授業の実施)、職業観の醸成(卒業後のあるべき姿の見える化)、早めの個別面談、保護者との連携強化		

②学校単位の情報

a)「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
救急救命学科	200,000 円	820,000 円	225,000 円	その他：入学検定料、教育充実費
臨床工学科	200,000 円	1,030,000 円	225,000 円	
臨床検査学科	200,000 円	1,020,000 円	275,000 円	
視能訓練学科	200,000 円	810,000 円	175,000 円	
歯科衛生学科	200,000 円	650,000 円	175,000 円	
歯科技工学科	200,000 円	950,000 円	355,000 円	
医療事務クラーク学科	100,000 円	740,000 円	225,000 円	
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/iryoshika/		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
医療系専門学校の社会的責任を果たすため、本校の校訓や教育目標、教育実績などの実態と照らし合せ、自らの教育研究活動等の状況を自己点検、自己評価し、現状の把握・認識に努め、課題や改善を要する点などを検証し、教育の質・水準の向上、学校関係者への報告によるガバナンスの改善につなげるとともに組織的継続的な取り組みを図り学校運営力の向上に努めていくことを目的に実施する。 自己点検・評価事項は以下 11 項目。 ・教育理念・目標 ・学校運営 ・教育活動 ・学修成果 ・学生支援 ・教育環境 ・学生の受け入れ募集 ・財務 ・法令等の遵守 ・社会貢献、地域貢献 ・国際交流 委員会の委員は、卒業生、保護者、地域住民、企業関係者、高等学校関係者、その他教育に関する有識者 3 名以上により構成される。 委員会は校長が招集し、例年 7 月頃、1 年度内に 1 回開催する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
北海道大学大学院歯学研究院 教授	令和 8 年 4 月 1 日 ～令和 10 年 3 月 31 日	企業等委員
石狩北部地区消防事務組合 石狩消防署警防課 救急担当	令和 8 年 4 月 1 日 ～令和 10 年 3 月 31 日	卒業生
学校法人創成学園 札幌創成高等学校 校長	令和 8 年 4 月 1 日 ～令和 10 年 3 月 31 日	他校校長
札幌狸小路商店街振興組合 顧問	令和 8 年 4 月 1 日 ～令和 10 年 3 月 31 日	地域関係者
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/iryoshika/		
(備考)		
第三者評価が未実施 学校関係者評価結果につきましては、本学園規程により、原則、自己点検・		

評価終了後3ヶ月以内に開催することになっており、今年度は8月の開催を予定しているため、現在公開されているものが最新となる。

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

<https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/iryoshika/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H101310100316
学校名（〇〇大学 等）	吉田学園医療歯科専門学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人吉田学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		178人（ 76 ）人	178人（ 76 ）人	178人（ 76 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	76人	74人	
	（うち多子世帯）	（ ー人）	（ ー人）	
	第Ⅱ区分	19人	20人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅲ区分	19人	19人	
	（うち多子世帯）	（ ー人）	（ ー人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	27人	24人	
	区分外（多子世帯）	37人	41人	
家計急変による 支援対象者（年間）				ー人（ 0 ）人
合計（年間）				179人（ 76 ）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	0人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	一人	一人	一人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	23人	0人	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	23人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。